[29-5]

ＤＤ夏季合宿報告要旨　　860822

試論『ドンデーン村をめぐる宗教的世界と担い手』
：モータムと「信奉者」（Luk Phung Luk Thien ）の関係を中心に

林行夫

１．［背景］ドンデーン村の宗教的世界（農村仏教）の構成
　＊上座部仏教：寺院／僧侶＝制度宗教・国教／東北部の特徴
　＊民間信仰　：村祠／祈祷師［モータム］＝各派の系譜の存在
２．「生き方」（男性／女性）に関わる宗教的世界
３．モータムと信奉者の社会的関係の実態
４．宗教的世界の変化

１【ＤＤ宗教的世界（農村仏教）の構成】

（１）圧倒的に多い『小寺』（samnaksong）＝寺院の自主運営
　東北部の出家傾向　BUAT RIEN［見習僧→僧侶と連続傾向］タイプ
　慣習順応型の一時僧ふえ、見習僧卓越（世俗教育の影響？）
　指導的僧侶の不足：水野時代から村の寺の僧侶は若い者
（長期出家者は＝師を、経験を求めて各地へ＝他出－帰郷＝する傾向）
→禁欲的行脚僧（森の僧）の存在。教義 FAI PARIYAT　よりは実践（瞑想）
　FAI PATHIBATを重んずる伝統

＊かつて熱心な僧侶はさらにより高い見識と師を求めて各県、果ては首府バンコクの寺院へ（知人頼りに）赴く。
＊移動する人々のルートを追って僧侶はしばしば招請のかたちで呼び戻されたり、ひきとめられたり。外的世界の経験、移動。情報、知識（thammachat）
＊慣習的に得度して村の寺に止住ばかりの若僧には教説、説法を指導するベテラン僧が（本来）必要［ほとんど不在］→実質的宗教指導者としての強力な優婆塞［長老出家経験者；儀礼知識の保持者］の必要性
＊帰って来た『還俗者（＝宗教的文人）たち』→村の古老：宗教的指導者へ
　若い僧侶の実質的指導
　一般俗人の宗教・儀礼的要求に応える

2

（２）モータム：東北タイに台頭した俗人の宗教スペシャリスト［悪霊祓い師］
これに先行　「村の守護霊信仰」　phi pu ta　/　cham
親族集団ごとの守護霊信仰　phi thiaowada / mo thiaowada
師匠－弟子－信奉者の明確な系列；村を越える影響力、分布
悪霊追放誦経文、瞑想、止観に習熟－NAK BUAT扱い
プーウィセートの伝統；未来仏信仰［PHRA SI AN］の影響＝モータムの教義
＊後述＊

２【「生き方」（男性／女性）に関わる宗教［仏教］世界】

（１）タンブンIDEOLOGY＝「生者中心」来世志向。より良き人生。ブン分有。
僧を頂点とした俗人の格付け＝男性の優位；SENIORITY の原則（儀礼時の座順）
女性：生涯を通じてサンガには参加不可→儀礼知識の欠如／長老男性の指導
＝タンブンの男女差／均等性

寄進、布施行（公共的集合儀礼）→祝宴：参加者間の協調。
持戒行（単独修行）→苦行：忍耐。

（２）生涯において経験する宗教的位階、役割
＊男性：少年→［SIT WAT ］→見習僧→僧侶（母親の要請：各位階を上昇可）
→還俗→結婚－→隠居：［優婆塞；プーナムスワット；ターヨック；モータム］
→再出家＜＝心の安らぎ、揺ぎない自己：当人の意志＞

＊女性：少女→（母親、祖母について食事布施）→適齢期：祝祭儀礼に参加－
結婚：息子を僧に－食事布施→中高年－隠居：［優婆夷；仏日持戒行への参加］
→メーチー得度式　＜生涯、特定のコーングラクサーに頼る＞

◎持戒の経験＝おとなの社会的態度としての「忍辱」（KHANTHI ;　KHWAM OT THON）の重要性、確認

◎望ましい『熟年』＝宗教に親しむ＝正統派プーヤイのイメージ。
男性はより具体的な儀礼の知識や技術を習得、継承する。女性はより頻繁に寺院がよい＝持戒行を励行する。

3【コーング・ラクサーをめぐるモータムと信奉者】

（1）モータム：東北タイ民衆仏教の歴史的な担い手（と積極的に定義したい）
社会的展開　イ．分布、経路：アーチャン＝ルークシット＝クライアント
　　ロ．＝村内の－信奉者（世帯主の妻を主とする）との関係
CF．モースー

（2）モータムと信奉者の儀礼結合　［信奉者＝女性］

a：通過儀礼と除祓儀礼（悪霊の排除→日常性の創出・回復・維持）
b：仏斎日、主要な年中仏教儀礼時に献花（pai busa）
c：篤信家（村内の在俗信徒の指導的助言者）＜聖＞世界と＜俗＞世界の仲介者；農村仏教の知識の把持→移住、開拓定着する男性の威信（？）

（3）東北タイ農村における「守護力」(khong haksa) としてのモータム

a：俗人として仏法を説き、主に除祓・招福儀礼を執り行なう宗教的スペシァリスト（通常、出家経験者）
b：禁欲・持戒の生活態度＝人格化、霊力化される「法」(phratham)
c：モータム相互の師弟関係と地理的範囲（僧侶→仏法を実践する俗人）師匠の相違＝「教説」の相違（共通点）→村境を超えて拡大
d：東北タイ地方に顕著な「高徳者」(phu mi bun)、「霊能者」(phu witset) の伝統およびその背景となる「弥勒信仰」(Phra Sian) との関わり

（4）ドンデーン村におけるモータム：「守護力」の布置（ＮＬ28表１－）

a：モータム各派の伝播・定着と共存→村の伝統的守護霊信仰の「改革」
b：信奉者 (luk phung luk thien)＝女性世帯主と未婚の子供が主
c：モータムのタイプ
　基本的に自分の妻子のみを信奉者とする者
　（さらに）自系妻方双方のきょうだい／親族を信奉者とする者
　非血縁者をより多く信奉者としてもつ（収入可。招請される）者

【問題点】　タテ関係の優先

娘婿としての夫と妻の関係
職業としてのモータム（師匠との報酬分配）
d：モータムのグループ別にみた信奉者の内訳
e：信奉者の構成の型（親族別／世代別）
f：親族と主流派モータムの関係

（５）モータムと信奉者の社会関係の意味

a：師匠（僧侶）－モータム－信奉者：タテの互酬性（保護＝帰依）
b：＜聖＞仏陀：僧侶＝モータム：信奉者（女性）＜俗＞
c：母から娘→特定化されるパトロン－クライエント関係（母系の祖霊信仰と禁欲的祭司・保護者としてのモータム）
d：女性と男性／日常生活と仏教における立場の差異
e：開拓村、「良田を求めて」(ha na di)の移動する生活世界との関わり

4【タンブン、儀礼の変化】

村の宗教環境が反映する村の生活変化　・水野以前（戦前－50年代）：モータムの台頭；村祠
・水野以後（1970年－今日）：持戒行の盛況
メーチー得度式
森の寺の設立

暮らし向き改善＝寺の行事が滞りなく行なえるようになった、
近年は、行事の中身も盛大、回数もふえ、新しい行事加わる
「タンブンは最近ますます金がかかる大仕事に」＝金がなければ儀礼の用意ができない、ひとを集められない、よびよせられない。
瞑想法の布教で有名な僧侶でさえ、基金集めに言及。金がなくては布教もままならない。

村の寺の境内の墓が語ること。
『かつては共同墓地に火葬して遺骨を埋めた。今は境内に３種もの墓がある。最も立派な形のものは何千バーツもの金がいる。わかい主婦はいう、死んだらそんな墓を作ってほしい。そうすると寺に来る他のむらびとは思うだろう。こ

の人はお金持ちで、おまけに立派に供養してくれる子や孫たちに恵まれて幸せだ、と。タンブンはこのように見せるための、いわば、見栄をはる手段、そのひとの経済力、権勢を誇示するような方法としての意味をもった』

同時に、『タンブンは気持ちの問題』
金にものをいわせてするタンブンは清浄な行為どころか、悪行になりかねないというひとも当然ながらでてきた。心が清ければ、布施する金品の価値は不問になると正当化するのである。
例［再録ＦＮ：出家に関するタンブン観］
『タンブンすることは気持ちの問題である。半ば怒りながら、嫌々行なってもそれはタンブンにはならない。形はどうであれ（タンブンすることは気持ちの問題である）、［形式儀礼的なことよりも］カチン、日々の食事布施、５，８戒の遵守といった自己犠牲、自発的行動がより大きな功徳を得る行為である』
FN 83/ 278
【長期に過ぎる出家はバープである】
「僧侶を長く続けることは、決して功徳を増すどころかバープ（罪行）につながることである。功徳を得るには一法臘で十分で、長く４－５，８年と留まることはあらゆることに慣れ、あらゆるものをなすがままに得ることになるからだ。」
FN83/307
「食事や生活必需品は自ら作っていかねばならない。これは生きて行く上で必要なことである。僧侶は（これに対して）ただ、食べるのみである。それゆえに長く留まることは決して良いことと言い切れない。もっともどういう考えをするかはその人次第だが」
FN83/320

（資料編）

東北タイ主要県の僧侶、見習僧、寺院数　：文部省宗教局年鑑　1983　（1981）

［１］主要各県比較：1983（仏暦2526）年

全国／	仏教徒人口	47,049,223	BANGKOK ／	仏教徒人口	4,730,302
	寺院総数	31,187		寺院総数	408
	僧侶	267,416		僧侶	17,682
	見習僧	130,571		見習僧	5,579
AYUTHAYA／	仏教徒人口	597,240	CHIANGMAI ／	仏教徒人口	1,180,319
	寺院総数	482		寺院総数	1,205
	僧侶	13,734		僧侶	3,500
	見習僧	1,479		見習僧	5,560
KHONKAEN／	仏教徒人口	1,454,954	N.SITHAMRT／	仏教徒人口	1,239,109
	寺院総数	1,347		寺院総数	596
	僧侶	6,990		僧侶	5,385
	見習僧	7,350		見習僧	2,144

参考：1981（仏暦2524）年のデータ

全国／	仏教徒人口	45,594,418	BANGKOK ／	仏教徒人口	4,918,751
	寺院総数	30,459		寺院総数	419
	僧侶	350,255		僧侶	19,961
	見習僧	143,115		見習僧	6,587
AYUTHAYA／	仏教徒人口	596,889	CHIANGMAI ／	仏教徒人口	1,131,411
	寺院総数	478		寺院総数	1,157
	僧侶	16,410		僧侶	3,106
	見習僧	1,702		見習僧	7,085
KHONKAEN／	仏教徒人口	1,381,246	N.SITHAMRT ／	仏教徒人口	1,215,233
	寺院総数	1,468		寺院総数	608
	僧侶	13,129		僧侶	5,863
	見習僧	10,569		見習僧	1,477

資①

［２］全国推移

	総人口	僧人数	見習僧	寺院数
1980	46,961,338	357,048	152,110	30,157
1981	47,875,002	350,255	143,115	30,459
1983	49,515,074	267,416	130,571	31,187

補記：1983年の全人口が1983年版宗教局宗教年鑑どおりに 49,515,074 人（男子24,911,684；女＝24,603,390）とすれば、人口の増加に対して出家者数は過去に比して減少。

［３］『浄域設定の勅許を受けた寺院(wisungkhamsima)』と『小寺(samnaksong)』

	総寺院数	／『浄域設定された寺院』	：	『小寺』
BANGKOK	408	398	：	10
AYUTHAYA	482	396	：	86
NAKHONPATHOM	181	140	：	41
KHONKAEN	1,347	376	：	971
UDONTHANI	1,735	578	：	1,157
KHORAT	1,430	605	：	825
CHIANGRAI	763	367	：	396
CHIANGMAI	1,205	492	：	713
SUKHOTHAI	252	127	：	130
［全国	31,187	15,130	：	16,404 ］原文ママ

1983年版宗教局宗教年鑑（：243-245 ）
補記：なお、現行のサンガ法（1962年実施）に至る以前の（現王朝による）近代サンガ法は1902年のラタナコシン暦 121年サンガ統治法である。

［４］【僧侶と見習僧の比率】

一寺院あたりに対する僧侶と見習僧の割合には地域差がみられる。
MOERMAN 1966 が指摘するように中部では僧侶の数が卓越するが、東北部ではほぼ半々から見習僧が多くなり、北部では圧倒的に見習僧の数が多くなる。
1983年版宗教局宗教年鑑によれば以下のごとし。

第９管区（コンケンが含まれる）平均＝６：５（僧侶：見習僧）

県別	KHON KAEN	5:5	MAHA SARAKHAM	8:4
	KARASIN	4:5	ROI-ET	4:3

CF: 東北・南部（第11管区）　平均＝８：４　（全国平均と同値）

県別	KHORAT	8:4	CHAIYAPHUM	8:2
	BURIRAM	6:5	SURIN	8:5

CF: 東北・北部（第８管区）　平均＝４：４

県別	UDONTHANI	4:4	NONGKHAI	2:2
	LOEI	3:5	SAKHON NAKHON	3:4

ドンデーンの村の寺では、僧侶が不足気味である。筆者調査時（1981-1982-1983）では還俗者の動きによって変動はあるものの、極端な見習僧の数の卓越が目につく［Ｐ：Ｎ＝２：11→１：15→２：10］。1983年の安居前には若い僧が１名である。1982年に二度目の法臘を終えた際、還俗の意志を表明したが、後任の僧志願者が翌年の安居期にもでそうにないということで還俗は（村の古老、両親に）ひきとめられた。結局、その翌年に長期出家者が村に帰還したので、彼は1984年に還俗。
水野は1964年の安居期における比率をほぼ半々［僧９、見習僧８、（寺子３）］と報告している（水野1981: 164 ）。
時代をさらに遡って古老の記憶を辿ると、半世紀以上前［1923年頃］でも安居期毎に僧侶が６－７人、見習僧は数え切れぬほどの者が出家したということからも（BUA KIANGKAEO :FN83/866 ）、見習僧の出家が盛んであったことがうかがえる。

1983年にできた森の寺(WAT PA)では、圧倒的に僧侶の数が多い[83 FEB.-OCT.]。［Ｐ：Ｎ＝２：０→３：０→４：３→４：０］

資②

図【仏教儀礼時でのサーラーでの座席配置＝俗人の位階の象徴】

DD村 1983 ［主要年中儀礼環境の理念型］

東

<u>祭壇（仏像）</u>

僧侶Ａ列　僧侶Ｂ列　　　見習僧　Ａ列
見習僧　Ｂ列

北　－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－　南

男性長老　　　　　メーチー
長老　　［PHU NAM SWAT］　　長老

男性中年世帯主　　　　　男性中年世帯主

－－－－－－－　年輩女性　－－－－－－－（老）

－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

－－－－－－－　中年女性　－－－－－－－（若）

若い女性　　　　　若い女性
－－－－－－－－－－－－　　－－－－－－－－－－－－－－

西正面入口

表：　モーティアオワダー＝モータムへの変遷リスト
(LIST OF MO THIAOWADA & MO THAM)

Mo Thiaowada: 1920-35?		no. of Chart.
1	[redacted]	26;　2/1
2	[redacted]	17/3; 17/4
3	[redacted]	17/2; 17/3
4	[redacted]	A
5	[redacted]	?

First Generation of Mo Tham: 1935-50?		
1	[redacted]	50; 17/2
* 2	[redacted]	17/2
3	[redacted]	32
* 4	[redacted]	8/2
* 5	[redacted]	S;　F/1
* 6	[redacted]	

Second Generation of Mo Tham: 19　--

* 2 , 4 , 5 , 6 +

[redacted]

資③

モータムの系譜　1：[redacted]

*[redacted]　（生涯僧侶。出生地不明。ヤソートン県フアヤート村の寺院に止住）

↓

[redacted]　（出家歴17年。ヤソートン県フアヤート村出身。ワンヒン村等を経てノンコイ村へ。1984年に死亡。<104歳>）

↓　↓

↓　[redacted]　：DD村モータム黎明期

↓　[redacted]　1935-50?

↓

*[redacted]　*[redacted]　[redacted]　：DD村モータム最盛期

*[redacted]　[redacted]　1945-70?

↓　↓

[redacted]　[redacted]　：DD村モータム新世代

[redacted]

@[redacted]は止住した寺院で[redacted]を愛弟子として教えを開示した。[redacted]もファヤート村出身であるが、モータムとしての教えを伝授されたのは[redacted]がワンヒン村にいたときである。二人の師弟関係は後にドンデーン村ーノンコイ村の間でも継続している。

@夫々のモータムは、彼に直接教えを伝授した者を自らの師匠とする傾向が強い。近隣村でもあるノンコイ村に住んでいた[redacted]の名は、ドンデーン村のモータムにとって事実上の大師匠として語られ、[redacted]の名は教祖として言及されるに止る。

モータムの系譜　２：[redacted]

＊(Phra) [redacted]　（僧侶。出生地不明。ナコンナヨックに止住）

↓

[redacted]　（ともに「森の僧侶」。かつてナコンナヨックに止住）

↓

[redacted]　（マハーサラカム県コスム郡出身。二人の僧にナコンナヨックで出会い、モータムの教えを受ける。三人は、後にコンケン県バンパイ郡バンクーンで森の僧として止住）

↓

バンクーンで還俗、結婚し、出身村＝クアブンクイ村へもどる。多くの信奉者を作る。

↓　信奉者とともにノンモン（サワンマッカー）村に移住。

[redacted]（ドンハン村住。カリスマ的な長老）

↓

[redacted]　↓

[redacted]　[redacted]　：DD村への伝播、定着

@彼らにとって最高位の師匠は [redacted]である。教祖については伝説的に語られる。[redacted]に影響を与えた [redacted]は年長者＝年少者の間柄から、大師匠 achan nyai （Bua ）＝　弟子 luk sit（Chu ）の関係として言及される。

資④

タイ仏教体系におけるモータムと信奉者の理念的関係概念図（メモ）

タイ国教としての上座部仏教

『都市部』　　『森林部』

サンガ／僧侶　＜王立寺院＞　　『森林部』の伝統
地方サンガ／僧侶　＜地方都市部＞　　森の僧／瞑想修行中心

教義、慣習　　瞑想・止観、実践
fai pariyat　　fai pathibat

周辺寺院　／僧侶　＜地方農村部＞

「村の寺」　［止住－移動］　「森の寺」

聖なる禁欲的世界

（タンブンの制度）　　（コーンラクサー）
モータムとしての僧侶
［得度式］　男
モータム（還俗－俗人）

息子－－－－－－－（夫）＝保護者／宗教主導者　［父］
|　PHU RAKSA　威信の体系
|
|　緊張／和合
|　協調の構造？
|　LUK PHUNG LUKTHIEN
－－－　（妻）＝従属者／帰依者　女
（メーチー得度式）
［母］　＝耕地の保守保有　祖霊

生産・生殖の世俗界＝循環／系譜